

**資料4** 教育実習後レポートと参考表

① 教育実習後レポートフォーマット

2012 年度 「教育実習指導」

教育実習後レポート（湘南ひらつかキャンパス）

提出日：2012 年 6 月 22 日（金）（ 月 日：6 月 25 日以降の実習終了者の場合）

\_\_\_\_\_（学部・研究科・科目等履修生） \_\_\_\_\_（学科・専攻）

学籍番号 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_ 年次・氏名 \_\_\_\_\_

1. 教育実習について感想や意見を述べて下さい。

① 学んだこと

② よくできたと思うこと

③ もっと力をつける必要があると思うこと

④ 実習前の準備として大切だと思うこと

⑤ 実習終了後、大学の担当教員に相談したいこと

## 2. 卒業後の進路について

① 教職志望の場合（資格教育課程支援室に教員募集の依頼があった場合の連絡のために）

・（公立、私立、どちらでも）

・（ ）都道府県・（ ）都道府県

・（小学校・中学校・高等学校）

・（専任・臨時任用教員・非常勤講師）

② 教職以外の場合。現時点で決まっていること、わかっている（考えている）こと

## 3. 2012年7月に受験する教員採用試験について

都道府県（政令指定都市名）	学校種	教科	受験番号
	小・中・高		
	小・中・高		
	小・中・高		

## 4. 教職課程に対する要望やアイデア

## ②「もっと力をつける必要があると思うこと

(資料4①の質問用紙 問1-③の回答、湘南ひらつかキャンパスの教育実習生29名)

## ～国際経営学科～

**A** 授業を行う為の知識が全然足りないと感じた。生徒に1教えるために教員は10の知識が必要である。私は政治経済（公民科）を担当したが、歴史的背景が重要となる単元で、世界史の知識が必要だった為、世界史の教科書と資料集も活用した。例えその知識を生徒に話さないとしても、自分がそのことを知ったうえで授業を進めていくのと、知らずに進めていくことでは授業の質が全く違い、授業を進める側としてもスムーズに展開していくことができると思った。また授業を盛り上げるためにクラスのムードメーカを上手く生かして雰囲気をあため、生徒の表現力を引き出す力が必要だと思った。

**B** プレゼンテーション能力

- ・何を伝えたいか、ポイントを明確に
- ・教材研究の理解力
- ・授業に必要な力全部
- ・緊張してもすぐに馴れること

**C** 生徒が理解できる説明をすることができなければならない。生徒が身近に感じる例などボキャブラリーを増やすことで授業に幅がでけると思うので、ボキャブラリーを増やす必要がある。

## ～情報科学科～

**A** 今回の実習を通して、字を上手く書けるようにならなければいけないということを実感しました。黒板に字を書く練習をたくさんして、慣れなくてはいけないと感じました。また、他の先生方に頂いたアドバイスとしては「考える間」を作ることをしなさいと言われました。どうしても沈黙が嫌いな自分とし

てはなかなかそういった間を作ることができませんでした。なので、沈黙を恐れずに「考える間」を作っていける授業展開をしていきたいです。

**B** 授業においては、単調になりやすい点を改善しなければいけない。どうしたら分かりやすく生徒の回りのことで例えられるのか。生徒に達成感を与えるのにはどうしたらよいのか。

**C** 授業の内容を分かりやすく説明できるようにする。ダメなことはダメとしっかり言える様にする。

- D** ・板書力 大事な所はしっかり黒板に記す。  
⇒今、何をやっているかが分かるようにする。書くのをためらわない。(めんどうさがらない)
- ・言葉遣い 1つ1つの言葉（単語）を間違えないようにする。生徒が何をやればいいのか分かるように細かく伝える。

**E** 生徒は、先生はなんでも分かると思っているので、数学の知識はもちろん、いろいろな知識をもっておくことが必要であると感じた。

**F** 1つ目に「話す力」です。指導に熱が入ると注意していても少し早口になってしまいます。すると大切なことを話していても正確に伝わらなくなってしまいます。またもっと抑揚をつけ、言葉、話す時にめりはりをつけることで大切なところはより強く印象づけることができます。そして1文1文が長くなってしまう傾向があるので、話す言葉をよりシンプルに分かりやすく、明確に伝えられるようにこれから訓練していきたいと思いま

す。

2つ目に板書についてです。分かりやすく伝えようとするあまり、板書の量がどんどん増えてしまいます。板書で書くことを必要最低限にし、いかに子供達に負担をかけさせないようにまとめられるのかを考えていかなければと思いました。また板書をする際に、黒板の中でまとまりを意識するようにし、最後に黒板を見た時に今日何をしたのかが明確に分かるような板書力を身につけていきたいなと思います。(図やグラフをあらかじめ作っておくとよい！)

#### G ・問題の難易度の設定

演習をするうえで、教科書の問題や自分が作ったプリントを配布したが、段階ごとに難易度を変えていき、生徒がつまづいて途中で投げ出さないように工夫する必要があると思った。

・生徒の予想を考える

自分の問いかけに対し、どのような反応や解答があるかを事前に整理しておくことで、実際に授業をやったときにも惑うことなく対応できる。しかし何通りかの考え方がある場合には答えまでのアプローチが異なってくるので、より対策していく必要がある。

#### H ・板書計画

黒板1枚でおさめされるように授業をやること。

・教え方の工夫

生徒が内容に入りやすくなるような教え方を考えること。

・生徒の声をひろって、そこから授業を広げられるような対応力

#### I ・指導力(発問、発言、教材、板書)

・社会性

・人間性(自分の弱みの克服)

J 言語力。生徒たちに伝えるためにどのような言葉を使えば良いのかわからなかった。また口が悪いので、きちんとした言葉を使えるようになりたい。また、重要なポイントを強調していえなかったので、メリハリをつける等やりたいと思う。

K ホームルームで指導する能力。連絡事項をただ伝えるのではなく、注意して欲しいところでは、生徒に注目してもらえるような話術は今後身に付けるべきだと思う。また、授業では予習不足なこともあったので、普段からもっと勉強しておく必要があると思った。

L 「生徒はノートを書きながら同時に聞くことはできない」よって書く時と聞く時の指示を明確にする必要がある。指示が明確だと授業がスムーズになり生徒も理解しやすい。SHRなどで連絡すべきことは、順序を考えて正確に分かりやすく伝えることが大切。特に伝える順序は大切で、重要なことは何回も繰り返して伝える。

#### ～化学科～

A 「授業力」「知識」「表現力」です。今まで大学の授業で模擬授業を何度かやってきましたが、それは「模擬」でしかなく、実際に中学生を相手に授業をするのは全くの別物であることを思い知りました。なので、時間配分をしっかりと立て、生徒を教師自身のペースに持ち込んで、時間内に授業を終わらせることができるような「授業力」をつける必要があります。

また授業を行って痛感したのが、知識のなさでした。教材研究を事前にきちんと行っていなかったのが、生徒たちにきちんと上手く伝えることができませんでした。「知識」をきちんと身につけ、生徒に理解しやすいように伝える「表現力」をつける必要があります。

**B** ・授業時間の配分

導入や展開（実験含む）に時間を掛けてしまい、目標としていたところまで行かなかったこともありました。生徒の反応を確認しつつも、授業の進行はきっちり行う必要があると考えます。

## ・薬品の廃棄

硫化水素が発生する実験で反応を停止させてから捨てる（中和）など適切な処理で廃棄することなど、学校現場ならではのお金をかけない処理技術を身に付ける必要があると考えました。

**C** もっと力をつけるところを挙げたらキリがないが、特に必要だと感じたところが3点ある。

- ・知識や引き出しの量
- ・場の空気の牛耳り方
- ・生徒との言葉のキャッチボール

**D** 板書の仕方、声の出し方、言葉づかいである。どれも慣れによって大幅に改善されるものである。まず板書の仕方に関しては、最初の授業では文字が小さく後ろの席の生徒は添え字の小さな数字が見えていなかった。また説明のために書いたものでも割と全部写したがるため板書内容を厳選する必要があった。

声の出し方については、大学の模擬授業で「指示語をよく使っている」という注意を受けていたため、意識していたが、早口になったり、語尾が聞き取れなかったりしたという指摘をうけた。なかなか自分では気づかない部分なので忘れないようにしたい。

最後に言葉づかいだが、細かい部分になるが、例えば「エーテルはNaと反応せず、 $H_2$ を発生しない」のである。しかし「エーテルはNaと反応させても・・・」という言い方をしてしまったことがあった。「アルコールと違って $H_2$ を発生しない」ということを強

調したいがために、言葉づかいがおろそかになってしまった。生徒は間違いに気づいていないと思うが、正確でないことを話してしまわないようにしたい。

**E** 同じ授業を各クラスで行うのですが、クラスによって授業の進み具合や説明の仕方に差がでてしまったので本当に教師になったら、どのクラスも平等に授業を行っていく必要があるということを学びました。

また、実習では教材研究をする時間がありましたが現場の先生方はとても忙しそうだったので教師になるまでにある程度教材研究をしておく必要があると感じました。

**F** 専門知識の量です。どの教科にも当てはまると思うのですが、今まで習ってきたものは、今習っているものとわずかながらでも関係していると思います。それらとどう結び付いているかという理論的背景が説明できるようになればベストだと思います。**G** 授業をしていて、とにかく知識不足を感じました。専門分野以外のところだったので、圧倒的に知識が少なく、生徒の予期せぬ質問や反応に対応できませんでした。普段から気になることは調べて多くの知識をもっておく必要があると思います。

普段、生徒と接する時には、正しい判断力が大切だと感じました。予期しない質問が普段の生活でも多くあり、生徒を不安な気持ちにさせないように、指導者としてもっと早く考えて判断する力が必要だと思います。もちろん、重大な事は、他の先生に相談しなければならないですが。

**H** 授業中になんでもかんでも答えやヒントを与えずに、生徒自身が考える機会が少なくなり、思考力が伸びにくい授業であるため、わざとぼけて考えさせる授業の方がよかつ

たのではないかと思います。発問をさせたときに自分の想定範囲外の解答がでたときの生徒へのレスポンスの悪さや何か嫌なことがあったときに顔に出てしまったりしたため、一部の生徒から怖いなどの印象を与えてしまったため、いろいろなことに対して精神的にゆとりをもって、柔軟に対応できるようにしたいと思いました。

#### ～生物科学科～

**A** 叱る力。授業中に騒いでいる生徒に対し、しっかりと注意することができなかった。自分の性格上、1度怒るとそのあとを引きずってしまうため、その後の授業展開のことを考えるとどうしても怒ることができず、あまり話を聞いてもらえないまま授業が終わってしまうことがよくあった。

そのため、自分の気持ちにメリハリをつけて、怒る時は怒り、その話が終わったら、しっかりと授業に戻るよう、自分の気持ちをコントロールしたいと思う。

**B** 授業の進め方はまだまだ改善しなければならないことばかりでした。どうやって伝えるのか、楽しく解りやすい表現はどうすればいいのか、より深く考えなければ3週間を通して感じていました。

**C** 生徒に考えさせる授業を行う力が不足している。観察結果をまとめる際などに一方的な説明が多かったり、生徒が結果について考察したくなるような発問を行うことができなかった。

生徒のことを知ることは教師にとって必要なので、積極的に関わるべきだったが、不十分だった。

**D** ・生徒を見ながら授業を進める（反応をみながら）話しをする時の間の取り方と抑

揚のつけ方

- ・相談などに対応できる人間力
- ・教科に関する幅広い知識

**E** 私は高校理科・生物で教師を目指したいと思っています。ですが、今回の実習で生物以外の科目、物理、化学、地学の勉強不足を痛感しました。理科で教師を目指すにあたり、全ての科目を生徒に教えることが出来るようにしなければならないと思いました。

学校ボランティアに多く参加し、生徒と一緒に指導、授業、教え方を学ぶ必要があると思いました。

**F** 全体的な知識量、勉強量が不足していたと思う。授業をしている際に勉強量の不足から自身が発する言葉に自信がもてずにキョドキョドした授業になってしまった。

また、板書をしながらしゃべってしまうという自分で気づけなかったくせも知り、生徒の方を見てしゃべるという基本的なこともできるようにしないといけない。

## ③「実習前の準備として大切だと思うこと」

(資料4①の質問用紙 問1-④の回答、湘南ひらつかキャンパスの教育実習生29名)

## ～国際経営学科～

A 教材研究はもちろん必要だが、生徒の名前と顔が一致できるようにしておくと、ホームルームや授業以外でも、様々な場面でスムーズに指導を行うことができると思う。たった3週間しかない為スタートダッシュが肝心である。また職員の顔と名前も把握しておくことが大切だと思った。個人的なコミュニケーションだけでなく、職員内での連携を取るときにスムーズに行うことができるのではないかと思う。

## B ・教材研究

2週間の数学の実習生は多くて8回授業をやっていたので、あらかじめ実習校に電話をして単元を聞いて事前に指導案を作っておくのもいいかもしれない。

C 担任学級の生徒の名前を覚えること  
教材研究

## ～情報科学科～

A 実習前のガイダンス等で事前に授業実習をするところがかつていいるならできる限り予習はしておくこと。今回自分は全範囲を準備しておいたので実習中はゆとりを持つことができましたし、部活動に参加することができました。実習中に自分の時間を作るためにも実習前に準備をすることが大切です。

## B 教材研究とボランティアとして学校に行っておくこと

## C どの単元をやるか、先に聞いておき、知識を深めておく必要があると思う。

D 教材研究：特に1年生や2年生の教材をしっかり見ておくと、1つ上の学年の授業を行うときに展開しやすくなると思います。

大学生活に慣れてしまうと朝早く起きるのが最初は大変かもしれないから、その準備が必要かもしれません。

E 教材研究はいくらやってもたりることはないように感じた。授業の際にはなせるネタなどをいくつか用意しておいた方がいきなり何かをはなしてくれと言われた時に役に立つ。

F まず「教材研究」はとても大切だと思います。子ども達の前で授業をする心構えはもちろん、指導教諭の先生の授業を見たときに(1週目)、自分の考えている授業とどれだけの違いや良さがあるか、改善すべき点をより明確に知り、気づくことができます。また数学は前後のつながりがとても大切なので、最低でも自分が指導する学年、その前年の教科書を確認しておき、より見通しをもって授業づくりをする必要があると感じました。

もう1つは大学で行なっている学校ボランティアです。3週間は非常に短く、あっという間に過ぎていきます。学校ボランティアに積極的に参加し、子どもとのコミュニケーションの取り方、学校のあり方、状況を知り、先生の子供達との接し方、授業、指導方法など多くのことを学ぶ、「知っておく」というのはとても大切だと思います。

## G ・教材研究(教科書を読んでおくだけでも違う)

- ・学校ボランティア
- ・健康管理
- ・笑顔を日頃から忘れない

**H** 教材研究はもちろん、研究授業にあたりそのような単位について設定理由などを調べることも。指導案の書き方はそれぞれ異なるので、実習校における書き方を、打ち合わせの際に聞いて、出来たら実習時間分作っておくこと。書き直す所など、事前に出せば指導していただけたと思います。

**I** ・教材研究 (関連する単元も)  
・指導案も作り、授業のイメージづくりを行っておく  
・社会経験

**J** 私は指導案と板書計画をある程度やっていったが、指導案の書き方も違っていたし、板書計画もやっていくうちにどんどん変わっていったので、しっかりしたものをつくっていくよりかは、単元の勉強とかその単位にかかわるものとかを勉強した方がよい。

**K** 授業をするために自分の教科の勉強をしっかりしておくこと。そのために担当教師と学習範囲についての連絡や打ち合わせを密に行っておくと良い。またホームルームや授業で使えるので、ニュースや雑学を少しでも知っておくと良かった。

**L** 教科指導、特に数学においては、数学のつながりを理解しておく。そのために指導する単位だけでなく教科書をすべて研究し、流れをつかんでおくことが大切である。基礎的な指導が大切なので公式などは全て導ける様にしておく。数学用語や定義は確実におさえて、正確に使えるようにしておく。とにかく基礎、基本が大切である。

#### ～化学科～

**A** 「教材研究」「学校ボランティア」です。教材研究の重要さを毎回授業が終わる度に痛

感していました。学校ボランティアが準備をして大切な理由の大きいものとしては、やはり生徒との接し方を学ぶためです。自分は今回の教育実習で積極的に生徒に接することができず、ボランティアの成果を発揮することができませんでした。もし自分がボランティアをやっていなかったら、もっと酷い結果になっていたと思います。また授業の進め方を先生の授業を見て勉強になるので、学校ボランティアは大切だと思いました。

**B** ・教材研究 指導要領の改訂などで、大学の授業で用いた教科書と内容が異なっている場合があるので、新しい教科書での生徒の学習状況などを確認した上で授業づくりを行った方がよいと思います。  
(・研究室 2・3週間研究室から離れるので、ある程度実験の区切りをつけてまとめておいた方がよいです。)

**C** 指導案を作成しておく。略案でも良いので、前もって準備をしておくことと心と時間に余裕が持てるので、これは大切なことだと思う。  
学習指導要領をチェックしておくことで、単元の目標が明確にわかり、授業が組み立てやすい。

**D** 何よりも教材研究だと思った。私はあらかじめ授業範囲と時間を打ち合わせて決めていたので、実習が始まる前から勉強し直し、授業の計画も考えることができた。教材研究はやればやるほど、不安になるが、決してやりすぎることではない。始まる前にたくさん勉強ができたおかげで、急な先生の出張でも対応することができたし、自信を持って堂々と授業することができた。また、ある程度自分の中でまとまっていることで、直前にあわてることもなく、実習期間中でも睡眠時間は平均して7時間はとれていたと思う。最低限授業ができる程度の勉強をしておけば、

前日に突然わからないことがでてきても調べる余裕もあり、落ち着いて授業することができた。

**E** 教材研究と模擬授業などで日頃から大きな声を出すのは大切だと思いました。またボランティアなどで生徒と関わっておくことで教育実習で戸惑う心配が無くなると思います。しかしどんなに準備しても最初から上手くいくはずないと思うので、教育実習期間内でどれだけ成長できるのかという心構えも大切だと思います。

**F** 一番大切なのは、その学校の教育方針、教育目標を知ることです。会社などに就職したときもそうですが、その会社、企業のスタイルにあわせて、物事を行う必要があります。なので、その学校のことを知り授業や生徒指導のやり方を考えることが大切だと思います。

**G** あらかじめ担当する分野、ページが分かっているのであれば教える分の指導案を作っておけばよかったと思います。私は具体的なことを知らせてもらえなかったので指導案がつかれず、実習中はほぼ毎日2、3時間睡眠でした。ぎりぎりになって仕上げていたので調べる余裕もなく、少し浅い授業になってしまいました。大まかな分野は知っていたので、もっと勉強しておけば良かったです。

**H** 指導案は自分の単元は全て作ること（実習が始まってから、1学年増やされたりするため・・・）と、道徳を4日前にいきなりいわれてもできるように生徒に何を伝え、心に響くようにどのような教材を使うか考えて準備した方がよいと思いました。

また、多くの人の授業や指導案を見て自分の授業に足りないものを補うために研究すればよかったと思いました。実習中は教採の

勉強ができなため単語カードにまとめたものをパラパラめくれるようにした方がよかったと思います。

### ～生物科学科～

**A** 教材研究！！様々な出版社の教材に目を通しておくのとおかないのでは実習に行った時にかかる時間が全然違う。また、生徒の興味、関心を引けるような経験談など。

**B** 実習校で使用している教科書をよく読んで、どうやって指導していくのか、予め考えておくことは大切だと思いました。（授業見学を実習の前にさせていただいたら、とても参考になると思います。）

**C** ・学校という社会の中で実習を行うので社会的常識、礼儀について知っておくこと、考えておくことが大切だと思った。  
・教材研究をしておくことも大切だが、それと同じくらいに学校教育法などの学校のルールや仕組みについても、勉強しておくことが大切だと思った。

**D** 教材研究。教科書を徹底的に読む。

**E** 自分が担当する科目の場合は、自分が授業する単元の他に、終わってしまった単元も勉強するべきだと思います。生徒たちは、新しい単元を何も知識がないまま学んでいくことになります。なので、前回学んだことに関連付けて理解することが出来るようにするためにも、前回の単元を学ぶ必要があると思いました。そのほかに、自分が得意とする単元も見しておくべきです。中学生、高校生の時は大事といわれたことが、授業では教えないことになっていたり、違っていたりすることがあるからです。

**F** 担当科目の勉強が確実に必要。自分が苦しむだけでなく、生徒にも負担がかかる。

参考表 湘南ひらかキャンパス 教職課程免許取得者及び就職者数(1992～2011年度)

2012.12.1

卒業年度	経営学部				理学部				合計		
	国際経営学科		情報科学科		化学科		生物科学科		卒業者数	就職者数	%
	卒業者数	就職者数	卒業者数	就職者数	卒業者数	就職者数	卒業者数	就職者数			
1992 (H4)	8	2	2	1	6	0	0	0	16	3	19%
1993 (H5)	7	2	2	0	9	1	5	0	23	3	13%
1994 (H6)	4	1	7	4	15	5	10	5	36	15	42%
1995 (H7)	7	3	6	3	13	5	6	2	32	13	41%
1996 (H8)	3	1	6	1	22	8	17	10	48	20	42%
1997 (H9)	6	2	9	4	19	3	19	7	53	16	30%
1998 (H10)	5	0	11	4	17	4	11	4	44	12	27%
1999 (H11)	7	3	8	4	16	10	11	6	42	23	55%
2000 (H12)	9	3	4	2	15	8	7	4	35	17	49%
2001 (H13)	3	2	8	5	14	5	8	1	33	13	39%
2002 (H14)	8	3	8	5	12	4	7	2	35	14	40%
2003 (H15)	13	2	7	4	9	7	4	1	33	14	42%
2004 (H16)	17	4	22	9	15	6	18	2	72	21	29%
2005 (H17)	32	5	22	5	15	6	20	10	89	26	29%
2006 (H18)	24	3	16	3	21	4	21	5	82	15	18%
2007 (H19)	20	7	9	3	16	8	20	8	65	26	40%
2008 (H20)	8	2	13	9	5	3	5	4	31	18	58%
2009 (H21)	9	2	8	8	11	11	13	8	41	29	71%
2010 (H22)	1	0	10	6	8	3	7	4	26	13	50%
2011 (H23)	8	1	12	8	8	7	2	2	30	18	60%
合計	199	48	190	88	266	108	211	85	866	329	38%
%	24%		46%		41%		40%		38%		

\* 就職者数には、正規教員、臨時的任用教員、非常勤教員(講師)を含む。

\* 赴任先の学校種は、小学校、中学校、高等学校を含む。

\* 就職者数は、資格教育課程支援室(旧 教職課程指導室)に本人から連絡のあった数を示す。

\* 本人から連絡のあった時点でデータを更新している。